

現代俳句協会 関西地区会議 会報

No. 32
2003. 10. 25

現代俳句協会関西地区会議
二〇〇三年度「総会」特別講演

俳句のゆくえ

講演・鈴木六林男 顧問



今、俳句がえらい盛んやいうはなし
です。ほんまかいなと思つてますけど、
皆さんがそう仰有るなかで、和田悟

朗先生も俳句は下手でもええと云う文章を書いてはります。和田先生に限っては違いますのや。結城昌治というのも朝日新聞から出た本のなかに俳句は下手でよろしと書いてある。和田先生の場合は他にちゃんと仕事がおますから、俳句は下手でええというてるわけでしょう。読んでみたら内容は標題に關係なく正確に書かれてある。そやか

らまあ看板だけ見てたら騙される。結城昌治の方は小説家ですからね、三年程前に亡くなりましたけど、まあええ加減なことを言うとるんですわ。

なんでかという、結城はあれ石田波郷の元弟子です。清瀬の結核療養所で一緒に俳句やつていたわけですね。ところが波郷に絶縁状出した。俳句やめるいうて。どう考えても俳句では飯食えん、小説さ、うて書いたのが『軍旗はため、もとに』で巨木賞受賞しましたね、波郷さんも納得せなしようがない。波郷さんも飯食うのにうんうん唸つてた結核ですからね。その人が「俳句は下手なほうがええ」と。和田先生の場合はねえ、ちゃんとした文章書いてはります。

今の俳句を指導的立場にある人は、俳句は大衆の文字であるというけれど、本当にそうかということについて、自

分の思いに触れていこうと思います。指導者が自分のはっきりしたものを持っていないということです。主体性に欠けている。大雑把な言い方になるけれど、その中に教養のある人たち、市民階級というのはねブルジョワジー。これが大事や。

どういう人が俳句をやってきたか言いますと、芭蕉の言葉借りますと「明日食うものの無いものは俳句をやるな」。三冊子か何かに書いてあります。明日食うものがないのに俳句にかかってられんから、そんなもん俳句やるな。芭蕉が弟子として選んだのは、第一は武士。次に医者が多いですね。それから大店の旦那さん。この三者ですね。まあ路通のようなしよのない者も一人くらいおりますけれど、そんなん例外中の例外ですわ。名前くらいやつと書けるかなあという人たちを芭蕉は相手

にしなかつた。選ばれた市民階級ですな。大衆じゃないですね。

当時の日本には寺子屋いうのあつたんですけど、あれはちゃんとした人たちの子供で、全部が全部行つたわけやない。今は皆学校に行くから大衆が俳句を作るけど、俳句は大衆の文学であるというのは賛成出来ません。それはその指導者なりエリートたちが自分のために言っているええ加減な言葉ですわ。

あの当時の芭蕉はよく旅行してますね。漂泊の詩人だと言われてますけど、あれ位ええ加減なやり方で旅行した人はまあないのです。多いときは十人近く供を連れてますからね。紀行文には書いてないですよ。しかし、芭蕉書簡集見ると宿屋から手紙出してあります。今日は誰と誰とが一緒に供をした。一人で行つたのは二回目のときに、名古屋

屋から中仙道を通つて、江戸へ下つたその時だけ。あとはみんな誰かついている。あの人ほど故郷の伊賀に帰っている人はない。漂泊の人でありながら、自分が死んだら滋賀県の義仲寺に墓こしらえて埋めてくれ。そんなん漂泊の詩人やつたら死ぬ場所まで決めとんでもええわけや、どこで死んでもそれは何でかというと特に滋賀県に弟子が多かつたんです。金持ちやとか侍の弟子か、この人たちに言うといいたら何とかしよるわ。

蕪村の方が故郷に帰つてないですね。出たら帰つてきてない。僕は芭蕉にもないけれど、芭蕉は言うてることと書いていることと違います。してることもね。立石寺に行くときでも「閑かさや岩に沁み入る蟬の声」ですか、あの俳句書いたとき言っている。立石寺

は予定のなかに入つてなかつたんですね。そやけど思い直してそこへ行つた。ところが曾良の日記を見ると始めからちゃんと行く予定に入つたある。紀行文の構成上そう書いた。あの紀行文はフィクションが多いですから、それはまあそれでよろしわ。『奥の細道』は三年掛かりで兎に角ちゃんとした文章に仕上げたんやから、それは構成上いろいろあるでしょう。

これから俳句はどっち向くかということですが、芭蕉の「閑かさや岩に沁み入る蟬の声」から現代までを手がかりに蝉俳句にどないに変わってきたかを考えてみます。そしたら俳句のことが少しぐらい向う透いてくるやないか想うのです。

芭蕉は三百年程前に「閑かさや岩に沁み入る蟬の声」。これ、答え先に出して

ますのや。僕らただ読んだら閑やかなあとかかる俳句書いてくれ、作者が先に答書く必要ない。何かえらい芭蕉批判してるようですけど、芭蕉は便利なんです。そらまあ芭蕉さんは有名税払つてはるんで、辛抱してもらわなしようがない。「閑かさや岩に沁み入る蟬の声」閑かさいうのは、書く以前から芭蕉にあるわけです。現代俳句の方法としては「閑かさや」は読者の領分です。作者は、そこまで書かなくて、よろしいのや。

それからずーっとたちまして、この戦争が終わったとき。そやから芭蕉からでしたら二百三、四十年経つてからですな。西東三鬼は戦争終わった直後「身に貯えん全山の蟬の声」。ダーツと蟬が鳴いているわけやね。自分は家を追い立てられて、どっかに行け言われてる時ですわ。「陣氏来て家されると

言うクリスマス」この時代です。神戸の元町の奥の県庁の裏の山本通り四丁目三鬼館。そういう時代に「恐るべき君等の乳房夏来る」とかね。そんな俳句作つて、俺はあかなあ。そやからまあ蟬の声身に貯へても、何処からも文句つけられん。それを貯へて力出して、敗戦の焦土の苦境を乗り切ろうと、三鬼は思つたのですね。

芭蕉の場合は、あまり自分のこと出さずに俳句書いてますね。閑かと感じるのは芭蕉なんです。三鬼の場合は全身で俳句を受け止めようとしてますね。その時代をきちつと。芭蕉の時代から三百年も過ぎてますからね。

蟬を借りてそれからちよつと経つて、これはえらいおこがましいけれど、僕の俳句。「蝸に終りし戦にはあらず」。あの時分は暑い日が続きました、青空はどこまでも青く澄み切つてかんかん

照りでしたね、戦争終わった当時はね。夕方になると蝸が鳴いてくる。戦争が終わったのは蝸のせいではない。他にもっと原因がある、責任者出て来いと云うところですね。

まあ、俳句が変わるとすれば短くなるんじゃないかという気がしているだけであつて、まだよく分らないです。百年先か三百年先かまだ俳句やる人がおればだんだん短くなるんじゃないかと。和歌から俳句、連歌になつてね、はじめ百やったのが五十になり今三十六になり、連歌もだんだん短くなつてきて、次に発句が俳句に名前が変わり、短くなった。リズムも生理的な五・七・うんですけれど、何となく短くなるんじゃないか、そんな気がします。

芭蕉が言った言葉として残っているなかで、「物と物とをひつつければよろし」と、それは「吟多くして(俳句の数です)、早し」これは三冊子のなかにありますね。三冊子のどこにあつたのか忘れましたが、芭蕉もその続きに「俳句は黄金を打ち延べる如くなすべし」。先にね物と物をひつつけ、あとは「黄金を打ち延ばす如くなすべし」。そうやつたらええと。これは人を見て芭蕉は方法を説いてる訳ですね。物と物を引つけることによつて転換する。芭蕉も四季の後に四時を友とする言うてますね。芭蕉も季語を時間だと感じたのですね。散文の小説では、何時、何処で、誰が、何をしたか四つの条件がなければ小説は成立しないですね。

何処で、何時というのを横の線に打ち込んで行くわけですね。そこで人を動かしたり、物言わしたり。ところが

俳句の場合は、その四つの条件のうちどこか取った上で成立してるわけですね。打ち込み方次第で俳句がよくなったり悪くなったり。技術もある訳ですけど、変わるのは転換するときの物と物、事と事なんです。そして時制です。テンスです。

そのようにして考えてきた時に自分たちの俳句の書き方というのは、何を目安にして書くか、と云う以前にどういふような計画があつて書いているか、というところに帰つてきますね。俳句はご存じのように非常に短いけれど、僕はなお短くなるという考えを持ってあるわけで、それは五十年先か五百年先か判りませんけれど。それと俳句は我々が考えているほど、目くじら立てて言うほど世間では問題にしていな、と云うことです。何故、俳句のため

に走り回っているのか。逆に俳句に振り回されているのか。そのところがはつきりしないと、俳句の未来が展げてこない。

戦争が終わったときある女性の有名な俳句の方が、「ああ何でも書ける。もう自由や。」と書いてますよ。虚子も新聞に書いてました。実情は自由ではありませんせんわ。そんなんで、俳句を書くときに自分の位置をきちつと決めるというやり方を僕はやってきた。自由になった、と思つた人は、アメリカ占領軍の検閲のない場所で、又は、GHQの検閲とかかわりのない俳句を書いてきたのかの、どちらかです。

俳句は自然を友としたらええと言う芭蕉の考え方、四季に遊び四時を友とするとなえとする考えですわ。早くそ

ういうような時代になったらよろしいがね。

状況によつて俳句の書き方色々あるのですけれど、その場合、芭蕉は俳句に書かなくて、文章に書いてある。それでうまく行つたように思います。

戦後は、俳句よりも、文章の方に成果がある。だんだんものを追い込んで書いて行くべきで、きつちりやつていかないと、曖昧なところでトラブルが起こつたとき、悔いを残しますね。「俳句のゆくえ」は僕自身の内部では混沌として、おのころ島作つているようなものやな。(笑い)俳句、こないして作つたらえ、と教えてくれたら有り難い。先に蝉の俳句申し上げてここ迄来たが、ここからは皆さんに期待します。(笑い) 終ります。(拍手)

(抄出・尾崎青磁)

※この講演は平成十五年七月五日、大阪天王寺都ホテルにて開催されました関西地区会議の総会において、鈴木顧問に特別講演をして頂いた時のものです。事務局で抄出した原稿に、先生の加筆ご訂正を頂きました。ご多忙中まことに有難うございました。

本会議顧問

伊丹三樹彦先生が第三回

「現代俳句大賞」を受賞

されましたことを、会員

の皆様とともに心から

お慶び申し上げます。

現代俳句協会関西地区会議

議長 山本千之

ご挨拶に代えて

現代俳句協会関西地区会議

議長 山本千之



日頃は当関西地区会議のためにご協力を賜わり有り難うございます。

ところで、本誌

で鈴木さんは「俳句のゆくえ」を追いながら長いスパンで考えておられますが、俳句を自己表現の手段と位置づけるものとしては、それが消えて欲しくないという願望も込めて、私たちに生あるかぎり、日本語とともに変わることにはあっても、俳句は存在し続けると考えています。したがって、写生とか前衛とかいろいろな立場を含みながら、当面は自分の信ずるものを追求する他はあるまいと覚悟を決めております。

現俳協が進む方向は予測の限りではありませんが、一応、詩性を追求するかたちを想定し、その活動を支えてゆく歯車になりたい、それも単なる思惑ではなく、衆議に基づく実践活動でありたいと思っております。会報の誌面を借りてこのことを再確認しておきたいと思えます。

関西地区事業報告

平成14年7月～15年7月

合同句集祭

第二十七回関西地区合同句集祭は、平成十四年十二月七日十六時より、大阪天王寺都ホテルにて開催された。これは今年七月の総会で選出された、山本千之議長による初の事業である。

句集祭はその年の句集や評論、その他作品を一堂に展示し会員相互間でその業績を讃える催しとして、現俳協の地区事業のなかでも、長い歴史を誇るユニークな行事である。

① 幹事会

幹事会では新事務局長に任命された尾崎青磁の司会で議事進行。山本議長の開会の挨拶に続き、新役員として、

議長 山本千之

久保純夫前事務局長が副議長に、尾崎が事務局長、中井不二男が経理部長と紹介された。次に、花谷和子理事が定年のため吉本伊智朗氏と交替された。

議長から、現在の総会と句集祭という年二回の行事だけでは、会員の希望に応えられないので、事務局サイドにて今後新しい事業拡大の方向で検討。新連絡制度の実施とともに、種々検討したい旨提案し了承された。

なお本日は東京より前田吐実男副幹事長が来賓として出席されたが、現俳協の現状として会員数の増減の実態を説明され、来年の新会員募集に格段の協力を求められた。

会計処理については中井部長から大会の会費や理事・役員の出張旅費の改定等の提案があり、了承された。

② 合同句集祭

第二十七回合同句集祭は、幹事会に引き続き同ホテルで挙行された。本年度の出品数は「句集」二十四点、「評論その他」七点、計三十一点であり、参加者も八十一名と先ず先ずの参加者数であった。披講役は中井経理部長が勤められて好評であり、また用意した句集・雑誌などあつたという間になくなるほどの盛況であった。

③ 懇親会

懇親会は、久しぶりの顔合わせというところもあつて、和やかな談笑の輪が生まれる中に伊丹三樹彦氏の音頭で乾杯となり、懇談に移った。途中、本部の前田副幹事長のご挨拶を頂き、各氏のご挨拶も続くなか、約二時間後和田悟朗氏の閉会の言葉で、無事全行事を終了した。

総会・幹事会・運営 委員会・企画会議

かつて関西地区会議は「仲良しクラブ」と評されたこともあつた。これを

会員中心の実のある会にする事が、山本議長に課せられた大きな課題であり期待である。この認識のもとに、会議内部の制度や規約の新設など焦眉の急を処理するため、先ず役員による事務局会議を最低月一回開催して、当面の課題を審議することになった。

次に議長提案の連絡網の世話役を、幹事会の了解のもとに運営委員とし、議長が必要に応じて運営委員会を開催、当面の課題を検討して頂くことになった。ここで決まったものは幹事会、または総会にて最終審議をお願いする手筈になっている。また、地区会議の機能を確固たるものにするため、協会本部規約に準拠した「関西地区規約」を新たに制定し、総会に提案することも当面の大きな課題である。

また、本会を何よりも会員中心の、魅力あるものにするには、新しい皮袋が必要である。そこで議長の提案で新たに企画専門の企画部を新設、中井部長管掌のもとに増田耿子氏を企画部長に迎え、吟行、添削講座、会報、句集、歳時記等の出版や旅行会、その他会員の要望を取り上げて審議することになった。

た。

幹事会の幹事は、種々の都合から前回迄に五十余名の方にお願ひしていたが、本来は身軽でしかも行動的でなければならぬので、今後は自然減の補充は極力避け、また高齢の方には顧問としてご指導頂くことにした。これで当面四十名台に押さえられることになる。以上が目下の課題として進行していくことになるが、それぞれ大きい内容を含んでおり、すべてをクリアするためには、議長の手腕に待つところ大であるが、そのためには各委員会の絶大なるご協力をお願いするものである。

二〇〇三年度総会・ 幹事会・懇親会

今年度の総会は、七月五日いつもの大阪天王寺都ホテルにて開催された。

① 幹事会

山本議長より十四年度事業報告および十五年度事業案が報告ならびに提案され、(内容は前項の各会合設立の件に同じである) いずれも可決された。

ついで地域連絡網の設置と運営委員会の新設の報告。企画部門の新設と、中井・増田担当の紹介がされた。組織運営の円滑化(前項記入と同じ)も賛成多数で採決された。

事務局からは本年度新入会員(全九十五名)を報告。次いで総会議長に吉本伊智朗氏が指名された。

引き続きの中井経理部長による十四年度会計報告と十五年度活動計画提案には異議はなく、それに関しての若森京子・小泉八重子(新任)両氏の監査報告も承認された。

② 総 会

参加者一〇八名(内総会出席者七十七名)、委任状提出者九五二名により、(会員総数一三九三名の四分の一以上必要という本部規約に則り)、本総会は成立した。

進行は尾崎が勤め、先ず本年度物故者十二名の方への黙禱を行なった。次に総会議長として吉本伊智朗氏を指名ののち、山本議長より、挨拶とともに出席された伊丹三樹彦氏の「第三回現代俳句大賞」受賞の報告と祝辞があり、

また伊丹氏の謝辞を頂いた。なお山本議長より本日の講師の鈴木六林男顧問より多額の寄付を頂戴した旨報告がされた。



再び、事務局から本年度新入会員の紹介(全九十五名の内本日出席の十三名)があり、また山本議長・中井部長より幹事会の結果報告と提案があり、

いずれも可決された。

③ 講演 会

鈴木六林男顧問による講演

「俳句のゆくえ」(約一時間二十分)

* * *

なお、今回の鈴木六林男顧問による講演を皮切りとして、次の総会でも顧問の先生による講演会を実施することになった。

④ 懇 親 会

山本議長の挨拶ののち、豊田都峰氏の発声による乾杯でスタート。懇談の間に和田悟朗、鈴木六林男、伊丹三樹彦、宇多喜代子、立岩利夫の各氏による挨拶を頂く。中でも鈴木六林男氏のご挨拶は司会者中井不二男の要望を踏まえた形で、先程の講演の内容を補足されたものとなり、参加者一同に感銘を与えた。

約二時間半後の七時四十分、吉本伊智朗氏の閉会の辞によって、本年度の総会は無事終了した。

(尾崎青磁記)

新人の一句

ふと涼し 慈悲半眼の 笑みの前 杭 高橋 宇雀
 「ゲルニカ」に防弾硝子軋む夏 藍 花谷 清
 Tシャツ ピツ心のしわも伸ばしてる 青玄 垣田 淳子
 秋津とぶ戒壇めぐりのあかい声 京鹿子 八木 和子
 衝突はやはらかにあり踊の輪 獅林・楳円律 あめ・みちを
 春の夢天然色でありにけり 半夜 藤本 厚子
 空蟬の一つにひとつの物語 青玄 市野すみ子
 枯芭蕉悲將の墓に音たてて 花藻 石倉 政子
 原爆忌樹々の葉擦れは叫びとも 京鹿子 衣川 妙子
 蜘蛛の囿にひとつぶの雨アート展 半夜 細野 秀子
 宇宙軽くなったか 病葉増えている 檉・俳句人 佐古 澄江
 露の椅子ポルトを締めて隣合う 渦 三宅しづ江
 地雷かも知れぬ毬栗踏んでみし 季流 伊佐 新吉
 ドイツ帰りの夫に残す 畑の西瓜 青玄 広畑 洋子
 五輪塔地水二輪は萩隠れ 京鹿子 奥村 鷹尾
 夏星の太古の構へ渡り石 季環 中谷 晴彦
 ぶつかりて笑うことなき蟻の列 藍 長 扶微子
 遠ざかる背にしかとある秋の翳 季流 志波 恵
 金平糖になる夢見てるこぼれ萩 京鹿子 井山 佐多

人は皆逝く日を知らず糸ざくら 藍 橋本 富子
 新涼のナプキンの立つ予約席 藍 岡市 順子
 かなかなの重なり来るや夕支度 鴻の鳥 関岡 洋子
 来年はどんな私が 百日紅 青玄 辰巳 蓉子
 シャベルカーの首振る下に行く残暑 藍 山脇 幸子
 息かけて眼鏡の中の秋をふく 花野 和多田林雨
 今もまだ「君」と呼ばれて枇杷の花 京鹿子 川本 順美
 待宵の猫は狩の眼していたる 一粒 藤原 良子
 幼虫も牙潜ませてゲンゴロウ 青玄 本田 信美
 声帯のゆるむことなし鉦叩 渦 大林美智子
 桃太郎と呼ぶるるトマト有事法 渦 百木 京子
 化野の結界で抜く鮎の骨 青玄 凧子まり絵
 海流に椅子置く 鷗 流されても 青玄 前田 播州
 喝采は天上にあり風花す 半夜 島津 昌子
 逝く秋の野に置き去りの後ろ髪 京鹿子 神崎ひでこ
 雲の峯母に声かけ逆上り 季環 伊藤 佐和
 秋深しラマ教伽藍の銅鑼の音 渦 松原 幸一
 辻毎に寺ある城下立葵 藍 高橋二三子
 朝陽中墓洗ひをり夫恋ひし 鴻の鳥 下田富美子
 夢二の忌長き睫の仮眠中 京鹿子 橋本 光乃
 墨いろの里膨れくる夜の梅 鴻の鳥 大坪登美子
 散り急ぐ萩に煩惱あづけたり 京鹿子 元広さざみ

バス連ね公開の御所小鳥くる

京鹿子 村田真智子

肖像の亡父の目の合う敗戦忌

藍 谷脇 政江

青梅の酒と蜜とに溺れけり

花野 原 和子

少年のコンビニの夏終りけり

藍 藤原さつき

胃カメラの目玉を許す 梅雨の底

青玄 荒池 利治

しぐれ傘ぽんと払へば翁の忌

京鹿子 田畑耕之介

曼珠沙華何処かでテロといふ戦火

季環 長谷 史談

なんと暑い向日葵の芯焦げだした

青玄 野口多喜子

各駅の月を見ながら帰りけり

花曜 喜多より子

携帯電話はお国訛りで青田風

青玄 佐野 延子

空蟬のなおも大樹に縋りおり

花野 岡本 正

深呼吸して秋の田の人となる

橋 池田 陽一

ぼったりと水を含みて夏夕日

半夜 青木 美葉

大南風山家は白きもの干して

橋 池田 朋以

土地勘はひとより犬の萩の径

京鹿子 土川 勝繁

曖昧をたしなめられし寒の月

京鹿子 藤田 弘華

強面の人の眉雪や葛の花

京鹿子 佐野 遊扇

名月に省略したる言葉かな

半夜 山田 紅琳

楽茶盃まわし見ている梅の昼

藍 白神 隆江

分校のうさぎ一ぴき青葉潮

藍 有田美代子

共有の川の洗い場秋涼し

藍 福田恵津子

眼鏡ふく九月の光すかし見て

半夜 伊藤 雅子

堅香子に天使の羽根のありにけり

半夜 徳重 三恵

墓洗う女三代 赤とんぼ

青玄 豊田 久子

青いべら少年の掌はふるえてた

藍 鳴海砂千子

気になる木ある日境に 蟬の樹に

京鹿子 西村 節子

秋蟬に触れば命主張せり

渦 正木 節子

照りくもり人は気まぐれ山粧ふ

京鹿子 杉江優希子

母となり母に甘へに初座敷

京鹿子 鷺尾 敏子

クレーン車の幾筋並ぶ梅雨明り

鴻の鳥 福井 秀子

黒白ははつきり言わず 蛸捌く

青玄 福本 淳子

木犀の午後は左官屋腕捲る

京鹿子 猪尾ゆかり

引揚げの問わず語りや母の夏

藍 菱川 弘子

朝あけのなかなか痴呆の始まりか

龍鼻 市位 輝夫

溪音やこぼれさうなる蜻蛉の目

京鹿子 高橋 千美

脛青き蔵王権現蟬しぐれ

重田 青都

白牡丹虚勢に疲れ崩れけり

京鹿子 一本 薫

喪ごもりや茗荷の花の順順と

半夜 榎原 文甫

鮎の絵のうちわ使ひて鮎を焼く

一粒 永野 久則

まほろばに陣曼珠沙華迫りくる

一粒 藤原 由利

秋佳き日長き帽子のコック長

藍 柴原 淳子

今生に願ひあまたや星走る

一粒 鈴木 達文

みどりさす裁縫箱の貝ボタン

藍 近藤詩寿代

★今年度入会された方々の一句です(順不同)

平成14年12月31日現在

2002年決算報告書

現代俳句協会関西地区会議

期首預金残高	3,309,281	(前期繰越)	期末預金残高	3,588,780	(次期繰越)
手持現金残高	488,258	3,797,539	手持現金残高	487,403	4,076,183

収入の部		金額	支出の部		費用
本部助成金(第一次)		2,506,000	総会費		956,614
本部助成金(第二次)		162,000	句集まつり		1,251,738
総会懇親会々費収入		504,000	助成金(青年部)		300,000
句集祭懇親会費収入		396,000	会議費(引継など)		98,597
寄付金		11,822	交通費		84,160
			印刷費		102,260
			慶弔費		20,000
			通信費		161,570
			事務費		61,880
			役員手当		260,000
			事業費		0
			吟行費		0
銀行勘定	預金利息	576	銀行勘定	振込手数料	4,935
	当期収入計	3,580,398		当期費用計	3,301,754
	現金引出等	960,817		預入等	752,058
合計		4,541,215	合計		4,053,812

平成15年7月5日

2003年度活動計画予算表

収入の部		金額	支出の部		費用
前期繰越金		4,076,183	総会費		1,000,000
本部助成金(第一次1269名分)		2,538,000	句集まつり		1,300,000
本部助成金(学生会員1名分)		800	助成金(青年部ほか)		500,000
総会懇親会々費収入		600,000	連絡費(会議・通信費等)		700,000
句集祭懇親会費収入		400,000	事務費(交通費・旅費等)		310,000
その他		500	慶弔費		50,000
			役員手当等		320,000
			事業費		600,000
			次年度繰越金		2,835,483
合計		7,615,483	合計		7,615,483

* 決算・予算表ともに平成15年7月の総会において、承認をいただいています。

青年部活動報告

青年部部长 村井隆行

いつも青年部活動にご理解いただきありがとうございます。関西地区青年部は、戦後生まれの方を対象に活動しております。奮ってご参加お願いいたします。本年度の現在までの活動を次の通り報告いたします。

平成十五年四月五日、京都の総合福祉会館（ハートピア京都）で、青年部句会を行いました。参加者は十三名、各自で選句披講の後合評に入り、和やかな雰囲気の中にも、真剣な意見が飛び交いました。

平成十五年八月九日・十日、滋賀・守山（ライスヴィラ都賀山）で合宿を行いました。前日の台風の影響が心配されましたが、予定者（十一名）全員が参加いただけました。

九日は、一次句会、懇親会、袋返し。十日は、早朝吟行、二次句会と充実したスケジュールで合宿を終えました。いつもの句会と違い、時間に余裕をもつて俳句に向き合えるのが、合宿のいいところだと思います。

今後とも、青年部活動にご協力よろしくお願いいたします。

企画部短信

☆琵琶湖クルーズ吟行企画

二〇〇四年度・関西現俳協吟行案として、琵琶湖八景遊覧船めぐりを計画。五月二十七日（木）の前後の日を目的に、汽船会社、会場関係と交渉の予定です。

さまざまの名所旧跡に囲まれた琵琶湖。初夏の太陽をいっぱい浴びながら、上代から、中世、近世と華やかで、哀しい歴史を湖側から探り出そうというのがこの企画です。

船の中で作った俳句を、下船時に集め、大津市内の会場で句会を開催します。予め依頼して置いた選者に選考していただき、優秀作品には賞品を出すべく準備をしています。詳細は来春二月頃、各会員宛連絡の予定。

☆関西現代俳句協会（仮）ホームページの開設

何を今更とのご批判もあるうかと思いますが、できるだけ早くホームページを開設の予定です。目標として、一、関西現俳協（仮）に参加している結社の紹介、俳句を志す人たちに便利を供する。

二、添削指導講座の開設、新人の育成を目的に、有力俳人による添削指導。指導者は適宜交代していただきます。

三、関西現俳協（仮）会員の最新句集、あるいは著作の紹介。など、長い時間を掛けて充実して行くつもりです。

■総会開催繰り上げの件

毎年、七月に実施してまいりました総会を六月に繰り上げ開催したいと考えています。東京の本部は三月に実施、前年度の決算報告、次年度の活動計画を審議事項としています。

関西が七月に実施するのは、前年十二月に締めた決算報告、一月から実施の活動計画を七月に審議するのはいかにも遅すぎるとの会員の声もあり、すこしずつ実施時期を繰り上げようとの考えからです。

なお、前回から総会時にゲストをお招きして、講演会を実施しています。来年もすばらしいゲストにお願いしようと思っております。（中井・増田）

現代俳句協会関西地区会議

会報・第三十二号

発行・平成十五年十月二十五日

発行人・山本 千之

編集人・尾崎 青磁

事務局

〒六一一〇〇一四

宇治市明星町二六一一 尾崎青磁方

TEL/FAX 〇七七四一三二一四五九